

カーシェアリング

技術概要

複数の人が自動車を共同で所有・利用する自動車の共同利用システムで、必要なときに必要なだけ利用する新しい自動車の使い方。1980年代から欧州を中心に始まった取り組みで、当初は小規模な仲間同士などで自然発生的に行われていたものが、組織的に運営されるようになったもの。

集合住宅やある一定のエリア内の住宅地など、設置された駐車場に無理なく行ける範囲を対象としてシステム導入を行うことが適当である。利用の方法は電話やインターネットで自動車の予約を行い、ICカードなどを用いて、駐車場に置いてある指定された自動車のロックを解除して利用する方法が主流である。通常のレンタカーと違い、30分や1時間単位など利用したいだけ利用でき、また、貸出の手続きも一度会員になれば簡単に行うことができる。



ブレーメン（ドイツ）のカーシェアリング

新都市での導入効果について

自動車の共同利用による効果としては走行距離の削減による環境負荷の削減や駐車スペースの削減が上げられる。スイスの事例では、自己所有車からカーシェアリングに移行した人の1年間の走行距離が9300km/年・人から2600km/年・人と約70%も減少したとの結果が出ている。また、ドイツでは走行距離が約50%減少したとの結果が出ている。東京都北区王子の実験では、実験期間中、自動車の機関分担率が従前の15%から10%に減少し、徒歩・自転車が5%増加したとの結果が出ている。

導入における課題（対応策）

導入にあたっては、カーシェアリング用の駐車場確保が課題。

カーシェアリングの運営主体が既成市街地内の低未利用地などを借り上げる場合の支援策を講じることによって、カーシェアリングの推進を図ることも考えられる。

その他（導入状況・技術開発等動向・将来見込み等）

ドイツでは数百台規模の自動車を所有している事例もあり、StadAuto社などカーシェアリング会社が運営を行っている。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成